

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 文化芸術振興課
記入団体名	小江戸川越「大地の園」の会

令和2年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/>	継続 <input type="checkbox"/>
--	-----------------------------

協働事業名称	「大地の園」（打木村治著）から100年前の川越を学ぶ事業	
協働事業の概要	川越市は、2022年に川越市制100周年を迎える。100年前の川越を描いた打木村治の自伝的長編小説「大地の園」を市民の皆様にご覧いただき。 1. 「大地の園」（全4巻）を普及させるため、川越市内の全小・中学校へ配布する。 2. 「天の園」「大地の園」の作品から制作した紙芝居のDVDを川越市内の全小・中学校へ配布する。	
協働事業の決算額	139,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和2年9月4日～令和2年12月23日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	⑦

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中	3	5	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	3	4	3.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	4	3.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	5	4
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	4	3.5

合計点数	27.5 点
------	--------



市長への報告会

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今年度は協働事業として事業期間の短縮、内容の再検討という中で事業実施となりました。今後、継続した事業として行うため、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、さまざまな方が作品の内容を共有できるような事業展開が行えるよう、団体とともに検討していきたいと考えます。

【市民活動団体等】

小江戸川越「大地の園」の会は発足時より、川越市の魅力を全国に発信することに少しでも寄与出来たらと願い活動をしてきました。今年度、初めて協働事業に参画しましたが、相当程度の成果を挙げることができたと思っております。特に市長、教育長様の積極的な支援をいただき、本会の更なる活動への原動力となった。次年度いこうも会員相互の連絡を深め「小江戸川越」の魅力を発進し続けていきたいと思っております。最後に文化芸術振興課の皆様のご適切なご指導に感謝しております。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	0名	B
B	6名	
C	4名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

- ・成果をどのような形で残していくか重要。また、どのようにこの事業を成長させるか。本の配布だけではなく、こういったものを今後の子どもたちにどう伝え残していくか。
- ・協働として相当程度の成果をあげることができたと思えるが、相当程度の具体的な内容を知りたい。
- ・「ゴール」をどこに設定するのか、市民団体と行政との間で共通認識をもつことが必要ではないかと感じます。

- ・ 今後は市民団体内部で完結されるのではなく、いかにして「大地の園」を市民間への広がりをもったものとしていくかを意識していただければと思います。
- ・ 行政の評点があまり良くないのが気に掛ります。作品の内容が共有できていないとのこと。もう少し具体的に知りたい。
- ・ 行政と団体の評価点をみると、相対的に乖離がみられ、今後協働事業を進める際には双方が再度協議を行い、目的、内容、役割分担等、全般にわたって再確認することが提案と考えます。
- ・ 各学校への配布が終了し、その次は。
- ・ コロナにより講演会などができなかったのは残念。SNSやHPの開設などもコロナ後は検討が必要だと思う。
- ・ 子どもたちが川越の歴史を再発見できる大切なコンテンツだと思うので、今後の広がりを期待します。
- ・ コロナ禍の中、どのような形で配布することができたか聞きたいと思います。
- ・ 保少年の成長物語がメインなのか、小説に描かれた川越を紹介するのがメインなのか、少し分かりにくいところがある。
- ・ 提案時、他自治体と共同で盛り上げ「NHK朝ドラ」へという話がありました。川越市政100周年の2022年を目標にさらに事業を継続して下さい。

協働事業評価シート

部課名	文化スポーツ部 国際文化交流課
記入団体名	NPO法人日本語教育ネットワーク

令和2年度

予算事業名	協働の推進
-------	-------

新規 <input checked="" type="checkbox"/>	継続 <input type="checkbox"/>
--	-----------------------------

協働事業名称	日本語学習ボランティア講座事業	
協働事業の概要	外国籍市民を対象とする地域の日本語教室において、日本語を教えるボランティアとして活躍できる人材を育成するために「日本語学習ボランティア講座（全20回）」を開催する。 【開催場所】 クラッセ川越5階国際交流センター 【日 程】 11月 5日、11日、12日、18日、19日、25日、26日 12月 2日、3日、9日、10日、16日、17日、23日 1月 13日、14日、20日、21日、27日、28日 【時 間】 午後6時30分～8時30分 【受講人数】 10名（応募者多数の場合は抽選）	
協働事業の決算額	200,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	令和2年11月5日 ～ 令和3年1月28日（当初予定）	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評 価 の 視 点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	5	4.5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	5	4.5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	4	5	4.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	4	5	4.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	4	5	4.5

合計点数	32 点
------	------



日本語ボランティア講座の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

コロナ禍により多くの事業が中止となるなかで、感染症対策を行い、講座が開講できたことを嬉しく思います。広報かわごえにて受講生を募集したところ、このような状況下にもかかわらず30名を超える応募があったことも担当者として励まされました。現在の状況が落ち着けば、地域における日本語教室の需要はさらに増していくと思われるので、日本語指導にあたるボランティアの育成については引き続き支援していきたいと考えています。

【市民活動団体等】

川越市の「広報」で募集していただいたところ、多数の応募があったことは、誠に喜ばしいことであった。また、パワーポイントを駆使しての講義は全く新しいものであり、「わかりやすい」と、受講者にも講評であった。今後は、国際文化交流課との相互認識のもと、インターネットを駆使した講座の構築を施行していく方向で一致した。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		評価結果
A	6名	A
B	3名	
C	1名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

- ・今後グローバル化、労働力の確保のため大切な事業だが、コロナ禍で途中でやめられたのは残念。
- ・コロナ禍の中での実施は大変だったと思いますが、対面形式だけでなく、WEB等を使用した講座も有りだと思います。
- ・収支決算書の内容が知りたい。
- ・どのような成果があったのか具体的に知りたい。

・これだけの応募者があったということはそれだけの需要があったということだと思われるので、うまくニーズを拾えたかなと感じています。外国籍住民が増えている中、こうした事業は大きな意味があると思います。見方を変えるならば、市民側と行政側の「感じていたこと」がうまくマッチした好例だと思いますので、今後更に期待したいと思います。特に文字通り人材を「発掘」できたことは今後に期待が持てると感じました。

・このコロナ禍で30名を超える応募があったことは成果だと思います。今後に期待します。

・このコロナ禍の下で、受講生の応募に30名以上あったことは喜ばしいことです。コロナは簡単におさまるとは思えないので、そのことを意識されて今後ICを駆使した講座を構築していく方向で検討されるようですが、実現されることを期待します。

・コロナで苦勞があったと思うが、ぜひ継続してほしい。30名を超える応募があったことは市民にとっても必要な企画という表れだと思う。出席率の高さに市民の熱意を感じる。担当課とNPOの良い協働ができたと思う。団体の20回もの講座開設（コロナで16回になったが）の努力は素晴らしいと思う。

・川越市の「広報」で募集され、30名以上の方が応募されたとの事でよかったなと思います。受講者も「わかりやすい」との講評もあったとの声も聞かれ、今後はコロナ禍に負けず頑張してほしいと思います。

・受講生の選定やレベルの違いなどいくつかの課題があると報告されていましたが、今後も継続していただきたいと考えます。

・協働事業スタート当初よりの懸念であった受講者がいかに現場に出られるか、本日の報告で少し“明り”が見えたような気がしました。ひきつづき行政と共同でボランティアの場の準備をお願いします。